第3回仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門　2007年5月20日(日)～ 6月2日(土)
ピアノ部門　2007年6月10日(日)～ 6月23日(土)

コンチェルト
CONCERTO

発行：第３回仙台国際音楽コンクール（SIMC）ボランティア広報宣伝サポート
問合せ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局）
TEL 022-727-1872　e-mail info@simc.jp　URL http://www.simc.jp
コンクールニュース
2006.12.10　Vol. 1

Contents

インタビュー ● 山下一史さんに聞く（仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者）
仙台国際音楽コンクール ● コンクール日程・申込状況・仙台オーディション概要
お知らせ ●「街かどコンサート」他　　レポート ● 学校訪問ミニ・コンサート　他

インタビュー

「自分の感性で見つけた『ご贔屓(ひいき)』を末永く応援して欲しい。」

山下(やました)　一史(かずふみ)さん（仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者）

大変ご多忙中にもかかわらず、コンクールの楽しみ方や音楽について、仙台への思いを熱く語ってくださいました。

―『仙台国際音楽コンクール』では協奏曲が課題曲の中心ですが…。

音楽家は聴衆を納得させなくてはいけません。出場者は一人の音楽家として自分の音楽を提示し、音楽家の集まりであるオーケストラ相手にちゃんとプレゼンテーションできるかという、音楽家としての根本的な資質が評価されます。そういう意味で非常に貴重なコンクールだと思います。どんなに若いソリストであっても「いいな」「頑張ってるな」と思える部分、音楽的に尊敬でき、納得できる部分があってこそ、良い関係ができるのです。

― コンクールの聴きどころは。

音楽は時間の芸術。過去に書かれた作品をその場で聴くことができる。また人間は第六感で緊張感やそこに出ている音以外の何か「気」のようなものまで感じることができる、それこそが「楽しさ」の本質です。それを味わう楽しみを知ったら、コンクールに限らず、演奏会にも自然と足が向くようになると思います。さらに、若くて高い理想を持った出場者が音楽家としてそのステージにある姿や、音楽でしか味わえないスリリングな手に汗握るような感覚、ライブ感をお客様も一緒に味わい、楽しんでいただきたいと思います。

― コンクール会場にいらっしゃるお客様に期待することは。

一生懸命にやっている様子を目の当たりにすると、おのずと「いいな」「応援しよう」という気持ちになれる出場者が出てくると思う。その中から自分の感性で見つけたそんな「ご贔屓」を末永く応援していって欲しいし、そんな「ご贔屓さん」がどんどん増えていけばいいなと思います。

―『仙台フィル』の指揮者として『仙台国際音楽コンクール』をサポートしていただきますが. . . 。

協奏曲というのは、交響曲と異なった神経を使う。それは、ソリストと音楽的に一緒に呼吸して寄り添えるよう、オーケストラ一人一人がソリストの音をよく聴いて集中しているからです。そしてたくさんの課題曲を準備し、それが何日も続くと実は結構大変なんです。そのように労力も使い真摯に取り組んでいる、仙台市の皆さんが誇りに思える「おらが街のオーケストラ」だということを音楽を通して伝えていきたいと思います。楽天やベガルタのようにサポーターを増やすいいチャンスだと期待しています。（笑）

― 今後の活動の予定は。

学校に出向いて音楽で先生のお手伝いをしたり、教えるというよりは一緒に演奏したりして、子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えたいと思います。子ども向けの音楽会なども「お子さまランチ」のように大人が考えたお仕着せのものではなく、子どものサイズでワサビ抜きでも、ネタは本物でなければならない。子どもたちにこそ本物を知って欲しいと思います。

― チェロを演奏なさるそうですが、何故指揮者になられたのですか。

僕の子どもの頃は、みんなが王さんや長嶋さんに憧れたのと同じように、僕は指揮者に憧れました。演奏会やTVで見て、とっても「カッコイイ!」と思ったのです。

― 演奏するのと、指揮をするのとではどちらが楽しいですか。

演奏するのは直接的な歓びですが、指揮者の楽しみは、準備を重ねて本番にオーケストラと一体感が生まれたときに、間接的ですが歓びを感じます。それぞれに楽しさがあります。

― 仙台の印象は。

季節感に恵まれていて、普通に出てくる当たり前の食べ物がみんな美味しい。豊かな食材を当たり前に食べられるということは、人間らしい豊かな生活で、それでこそ良い音楽ができると思う。いろいろな面でバランスのとれた良い街だなと思います。大学卒業したての頃、仙台で『オリザのねがい』というオペラを僕が初演したんですが、本当に素晴らしい所という思い出があり、またここに来れたのは何かご縁があるのかなと思います。

― 体調管理など気をつけていらっしゃることはありますか。

特にないですが、家に帰った時に食べるカミさんの手料理が一番です。年間200日以上は外食ですが、どんな美味しい料理よりもカミさんの料理を3日も食べると元気になります。感謝しています。

（近・山）

第3回仙台国際音楽コンクール　全体スケジュール

2005年	8月	出場申込開始	
2006年	9月1日	出場申込締切（当日消印有効）	
	9月	予備審査	
	10月6日まで	予備審査結果発送	
	11月15日	参加料納入期限	
	11月30−12月1日	オーディション……ウィーン国立音楽演劇大学（オーストリア）	
	12月2日−3日	オーディション……パリ国立高等音楽院（フランス）	
	12月4日−5日	オーディション……モスクワ音楽院（ロシア）	
	12月7日−8日	オーディション……上海音楽学院（中国）	
	12月16日−19日	オーディション……仙台市青年文化センター（日本）	
2007年	1月8日−9日	オーディション……ジュリアード音楽院（アメリカ）	
	1月22日	オーディション結果発送	
	2月28日	課題曲変更届け出期限	
	5月18日	出場登録	ヴァイオリン部門
	5月20日−22日	予選　（出場人数：おおむね36名）	ヴァイオリン部門
	5月26日−28日	セミファイナル　（出場人数：12名以内）	ヴァイオリン部門
	6月1日−2日	ファイナル　（出場人数：6名以内）	ヴァイオリン部門
	6月2日	表彰式	ヴァイオリン部門
	6月3日	入賞者記念ガラコンサート	ヴァイオリン部門
	6月8日	出場登録	ピアノ部門
	6月10日−12日	予選　（出場人数：おおむね36名）	ピアノ部門
	6月16日−18日	セミファイナル　（出場人数：12名以内）	ピアノ部門
	6月22日−23日	ファイナル　（出場人数：6名以内）	ピアノ部門
	6月23日	表彰式	ピアノ部門
	6月24日	入賞者記念ガラコンサート	ピアノ部門

第3回仙台国際音楽コンクール　申込状況ならびに予備審査通過者

第3回仙台国際音楽コンクールの出場申し込みが9月1日に締め切られ、35の国と地域から**ヴァイオリン部門131名、ピアノ部門191名、計322名**の申し込みがありました。

多い順に、日本（127名）、中国（30名）、ロシア（29名）となり、ロシアとアメリカは第2回開催時より申込者数が倍増しました。申込者の最年少は12歳でした。

申込者から提出された録音による予備審査の結果、**ヴァイオリン100名、ピアノ113名**がオーディションに進むこととなりました。オーディションは11月30日から世界6都市（ウィーン、パリ、モスクワ、上海、仙台、ニューヨーク）において公開で開催されます。

※国籍を二つ有する申込者は片方の国名で計上しています。

第3回仙台国際音楽コンクール　仙台オーディション概要

テープ審査による予備審査を通過した213名（ヴァイオリン100名、ピアノ113名）が、コンクール出場をめざし、世界6都市で行われるオーディションに挑みます。ご当地仙台では、ヴァイオリン部門35名、ピアノ部門29名のオーディションが予定されています。**このオーディションは一般公開されます**ので、予選に先駆けぜひ足を運んでみましょう。

日付：ヴァイオリン部門　2006年12月16・17日
　　ピアノ部門　　2006年12月18・19日
場所：仙台市青年文化センター　コンサートホール
　　開場12:30　開始13:00　終了17:00頃

入場は無料ですが、入場整理券が必要です。各区役所総合案内、青年文化センター、イズミティ21、太白区文化センター、ヤマハ仙台店、カワイ仙台店にて配布中です。（未就学児入場不可）

ヴァイオリン部門

次の曲目から1曲を選択し、その全楽章（カデンツァを含む）をピアノ伴奏で演奏する。

モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲ト長調 K216（ベーレンライター版）
モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲ニ長調 K218（ベーレンライター版）
モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲イ長調 K219（ベーレンライター版）

ピアノ部門

任意の協奏曲の第1楽章をピアノ伴奏で演奏する

およそ3倍の狭き門をくぐり抜けた演奏者が、ヴァイオリン部門は来年5月20日、ピアノ部門は6月10日から始まるコンクール予選で、いよいよ腕を披露することとなります。ファイナルに向けての険しい道のりは、もうすでに始まっています！　（今）

第3回仙台国際音楽コンクール　関連事業
「街かどコンサート」その8
「師走だよ!100人の弦!!大集合!!!」

今回のコンサートのために弦楽合奏団を大編成
「幼稚園児から社会人までの総勢100名を超える音楽家たち」と「4人のヴァイオリニストたち」の大演奏会!!

指揮：山下一史（仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者
仙台ジュニアオーケストラ音楽監督）

日　時	2006年12月27日㈬　18：30開演
演奏曲目	鈴木鎮一／きらきら星変奏曲 パッヘルベル／カノン ヴィヴァルディ／4つのヴァイオリンのための協奏曲 ロ短調 op.3-10 チャイコフスキー／弦楽セレナード ハ長調 op.48
会　場	仙台市青年文化センター　コンサートホール
チケット	入場無料／コンサート当日17:00から会場前にて整理券配布
チケットお問合せ	**仙台市市民文化事業団　コンクール推進課** 〒981-0904　仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 （仙台市青年文化センター B1F）TEL：022-727-1872 URL：http://www.simc.jp　e-mail：info@simc.jp

第3回仙台国際音楽コンクール開催記念
チャイコフスキー協奏曲の夕べ
～仙台国際音楽コンクール優勝者の饗宴～

タン・シヤオタン（第2回コンクール ピアノ部門優勝）
松山　冴花（第2回コンクール ヴァイオリン部門優勝）

指揮：山下一史　　管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

日　時	2007年2月1日㈭　19：00開演
演奏曲目	チャイコフスキー 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より　ポロネーズ ヴァイオリン協奏曲ニ長調op.35（松山冴花） ピアノ協奏曲第1番変ロ短調op.23（タン・シヤオタン）
会　場	仙台市青年文化センター　コンサートホール
チケット	S席／3,500円 A席／3,000円 学生／2,000円（A席） ＊学生券の取扱いは仙台市市民文化事業団、イズミティ21のみ
チケットお問合せ	**仙台市市民文化事業団　企画調整係** 〒981-0904　仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 （仙台市青年文化センター 1F）TEL：022-727-1875 URL：http://www.simc.jp

学校訪問ミニ・コンサート　in　中田中学校

10月4日、仙台市立中田中学校において、松山冴花さん（ヴァイオリン）と津田裕也さん（ピアノ）の学校訪問ミニ・コンサートが開かれました。

このコンサートは、コンクール入賞者が学校を訪問し、多くの人たちにクラシック音楽を身近なものとして楽しんでもらおうと企画された交流イベントの1つです。会場である体育館は松山さんと津田さんの深い音色で、今まで体験したことのない空間に変わりました。曲と曲との間には質問コーナーも設けられました。松山さんの飾り気のない会話に会場も打ち解けた様子で、たくさんの質問が飛び交いました。

演奏を聴き終えた生徒たちは、「普段なかなか聴けないヴァイオリンを聴くことができて、良い体験でした」「心に響く演奏で、心が生まれ変わりました」など、クラシック音楽に親しむきっかけを掴んだ様子でした。

（遠・堀）

仙台国際音楽コンクールを支えるボランティア

2006.11.16現在

コンクールの運営を支え、その成功を願って応募した市民参加のボランティアたち。年齢層も幅広く総数約348名となりました。コンクールの陰の力として各部門に分かれて活動します。いよいよ本番をひかえて各部が準備段階に入っています。まだ応募できる部門もありますので事務局へ問合わせてみて下さい。

会場運営サポート 201名

コンクール会場で受付、案内、販売などのサポートをします。また「街かどコンサート」他関連事業の会場サポートもします。

広報宣伝サポート 47名

コンクールニュース「コンチェルト」の発行、配布を通して広くコンクールを広める活動をします。また出場者のための冊子「滞在のしおり」を作成します。

出場者サポート 115名

交流サロン「ハーモニー」の運営をします。そして語学力を活かして出場者をサポートします。

ホームステイ受入 46名

コンクール出場を終えた出場者をボランティアの家庭に温かく迎え、送り出します。

ボランティア委員 24名

コンクールボランティアの活動方針や内容検討。月1回の会議を経てボランティア全体を支えています。

クラシック豆知識 ❶

コンチェルトって?

このコンクールニュースの名前でもある「コンチェルト」、日本語訳すると「協奏曲」、一度は聞いたことのある単語だと思います。そして、仙台国際音楽コンクールの課題曲も協奏曲が中心になっています。

この協奏曲と交響曲の違いは、独奏者がいるという点です。独奏者はオーケストラの音色と調和する必要があるため、とても技量が問われる曲が多いのも特徴です。

こうした高い技量が必要な協奏曲の中で、特に注目すべき部分は「カデンツァ」でしょう。独奏者の技術を思う存分発揮し、独自のテンポで自分の演奏をすることができるので、個性が強く現れる部分とも言えます。仙台国際音楽コンクールでも、このカデンツァに注目して聴くと審査員気分が味わえるかもしれません。（北）

I LOVE くらしっく

ウォークマンを携えてモーツァルトを聴きながら山登りを楽しんでいた時代に、当時裏通りにあった（現在一番町にある）「喫茶店・モーツァルト」に出会いました。ザルツブルグにある同名の「モーツァルト」と同じ看板に惹かれたのがきっかけでした。以来20年、変わることなくモーツァルトの曲で迎えてくれるカフェでコーヒーを飲みながらクラシック音楽を楽しむひとときは、私のとても大事な時間になっています。現在はもうひとつの「カフェ・モーツァルト・アトリエ」（米ヶ袋）でクラシックの音楽会を楽しんだりもします。街角のカフェに入ったら当たり前のようにクラシックの生演奏が聴こえてくる…、仙台がそんな街になったら最高です。最後に「仙台国際音楽コンクール」はとにかく長く続けて欲しいと思っています。

「カフェ・モーツァルト・アトリエ」にてJ.Kさん談（竹）

こんちぇると・川柳　持ち味を　持ち寄り愉快　ボランティア（長）